



図書館だより 5月号

東峰学園（中学部） 梶原弥生

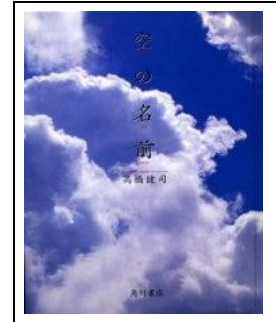
新緑が空に映え、花々が咲き乱れ、さわやかな風が心地よい季節になりました。5月は一年中で最もさわやかで過ごしやすい季節です。「五月晴れ」の空を見上げてみましょう。空はどんな色ですか？雲はどんな形ですか？

雲や空の本を紹介します

「空の名前」(高橋健司/写真・文)

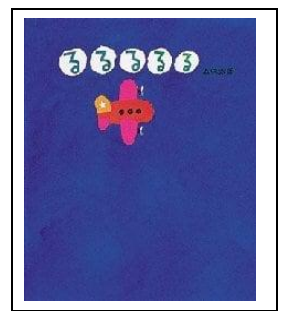
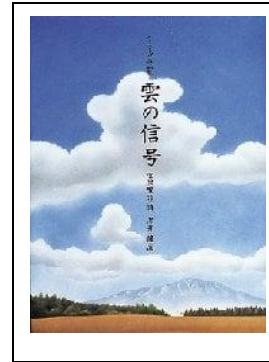
雲、水、風、季節など、空や天候、季節に関する日本語を6つの章に分類して言葉とイメージした写真とともに、言葉の意味を解説してくれる歳時記風天気図鑑です。今日見た雲の名前を調べてみましょう。

本で知った言葉にぴったりの風景が見つかるかもしれません。



「雲の信号」(宮沢賢治/詩、黒井健/作)

宮沢賢治の詩に、黒井健さんが絵を描いたイーハトーブ詩画集「雲の信号」。黒井さん自身が好きな詩を選んだら、たまたま空と雲に関するものになってしまったと言います。



「るるるる」(五味太郎/作)

真っ青な空にちいさなるるるる。だんだん るるるるは、大きくなって飛行機の姿も大きくなって、雲の中へ。

空と飛行機とるるるる。飛行機の音が聞こえてきそうです。

「ときめく雲図鑑」(菊池真似/写真・文)

雲は、毎日様子が違うだけでなく、分刻みや秒刻みで姿を変えることがあります。面白い形だったり、かわいい形だったり、そんな雲がどんな風にできて、どうなっていくのかを詳しく説明しています。



「雲を愛する技術」(荒木健太郎/著)

「子どもの頃はよく空を見上げていたんだけど、最近は全然見てなかった」こんな話をよく聞きます。みなさんは覚えているでしょうか、いかにも夏という感じの青空に映えるモクモクした雲の壮大さを。（「はじめに」より）

「雲の王」(川端裕人/著)

気象台に勤務する美晴は、息子の楓大と二人暮らしです。ある日、自分たちが天気「よむ」能力をもつ一族の末裔であることを知ります。美晴にも天気を予知する不思議な能力が出現し、特別研究チームへの参加を任命されます。それは、いわゆるゲリラ豪雨の予報と被害予防を目的とするものでした。



新刊案内

「方舟」(夕木春央/著)

大学時代の友人と従兄と一緒に山奥の地下建築を訪れた冬一は、偶然出会った三人家族とともに地下建築の中で夜を越すことになりました。翌日の明け方、地震が発生し、扉が岩でふさがれてしまい、水が流入してきました。いずれ地下建築は水没。脱出することが出来るのでしょうか。

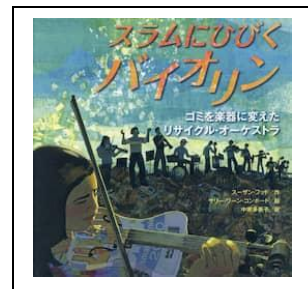


「注文に時間がかかるカフェ たとえば「あ行」が苦手な君に」(大平一枝/著)

「いらっしゃいませ」、メニュー、代金。吃音でそれらが言えず、接客アルバイトを諦めていた若者がいました。人と話したいけれど言葉がうまく出てこない。そんな悩みを抱えた若者たちが1 day カフェを始めました。

「スラムにひびく バイオリン」(スーザンフード/著)

ごみ処理場の町で生まれた少女アーダは、貧しいながらも音楽好きの家族に囲まれ、バイオリンにあこがれていました。チャベスに音楽を習うことになったのですが、子どもたちにゆきわたる楽器が無いことが分かります。そこで・・・。



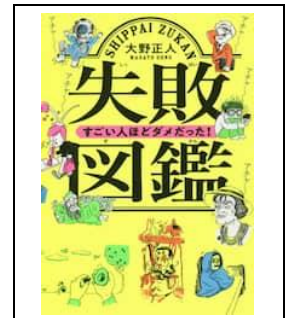
「色とりどりの ぼくのつめ」(アリシア・アコスタ/文)

ベンはマニキュアに夢中。色とりどりのごきげんな爪を見るとワクワクするから。ところが真っ赤にぬって学校に行ったある日、男の子たちが「やーい、女の子」とからかってきて・・・。



「失敗図鑑」(大野正人/作)

多くの伝記では「英雄」「成功者」として紹介されている偉人たちは、ずっと成功し続けてきたわけではありません。たくさんの失敗をしてきました。失敗を恐れず、前に進むことの大切さを教えてくれます。



購入希望図書について

図書館においてほしい本（話題の本、とにかく読みたい本、勉強に役立つ本）を記入して下さい。漫画や雑誌は購入できません。みなさんからのリクエストをお待ちしています。（6月30日まで）

本の題名	著者	出版社	この本を選んだ理由